

## 早明浦ダム再生事業環境検討委員会（第4回） 議事要旨

開催日時 令和3年3月2日（火） 14:00～16:00

開催場所 高知市文化プラザかるぽーと 11階 大講義室

出席委員 荒川 良 高知大学名誉教授  
石川和男 松山東雲女子大学名誉教授  
石川慎吾 高知大学名誉教授  
○ 笹原克夫 高知大学教育研究部自然科学系教授  
高橋勇夫 たかはし河川生物調査事務所代表  
藤原 拓 高知大学教育研究部自然科学系教授  
(○：委員長)

### 議事要旨

#### 1) 規約第4条第1項について（報告）

- ・規約第4条第1項により委嘱している藤原委員から、高知大学を退職するため辞任したいとの意向があり、今回の委員会をもって退任されることが報告された。

#### 2) 第3回委員会における委員指摘事項とその対応について

事務局の対応について、了承された。

#### 3) 植物の試験移植結果報告

事務局より植物の試験移植結果について報告し、了承された。

- ・今回の試験移植の結果を見ると個体移植(小さい株)は定着率が高いため、今後、シランを移植する場合は播種をせず、個体移植が良い。

#### 4) 環境への影響予測及び評価(案)

事務局から予測結果及び評価(案)について説明し、了承された。

なお、委員からの主な指導・助言は以下のとおり。

- ・水質の濁質では、SS25mg/l、濁度10度という評価基準を設定しているが、設定根拠の説明を明記しておくこと。その他の環境区分についても同様に明記すること。
- ・水質の予測地点は吉田橋、本山橋、大豊、銅山川合流前の4箇所ある。予測地点毎にどのような基準に基づいて、最終的にどのような評価したかを丁寧に説明する必要がある。
- ・資料-4 p21の濁水予測結果のグラフにおいて、出水後期に濁度10度付近で段々になっている。原因を確認いただきたい。
- ・動物に関してはマニュアルに基づき調査されて、生息の実態が把握されており、問題はない。特に猛禽類に関しては行動圏の内部構造も把握されている。動物の動きは不確実性が大きいので、今後モニタリングしながら、順応的に対応していくということで良い。
- ・植物に関しても、きちっと評価されて、予測結果、環境保全措置内容はこれで良い。

- ・昆虫に関しても同様である。
- ・水温の影響予測では、保全措置の効果で一番重要なことは、急激な水温低下が改善できたことが生物にとって一番大きい。これをまず前面に出して、その上で水温低下の幅も5℃未満に抑えることができたため、水温変化も小さいという表現の方が、わかりやすい。
- ・生態系の評価でも、ダム直下区間の1kmのところかどうかという評価を追記する必要がある。
- ・この地域には素晴らしい自然があるため、人と自然との触れ合いの活動の場として建設発生土受入地跡を有効活用して頂きたい。
- ・人と自然との触れ合いの活動の場は、客観的で冷静な予測・評価がされている。今後の水機構の事業、ダム事業全体として共有していただけるとありがたい。
- ・廃棄物等については、建設副産物の想定される発生量に対して処理計画及び有効利用が適切に検討されていることを確認できた。

5) 今後の委員会スケジュール予定

事務局より今後の委員会スケジュール予定について説明し、了承された。

以上\_